

問1 鎌倉時代から室町時代にかけての西日本における農業の変化について、中国との交流の影響を含めて説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2023年 長野県公立入試 類似）

- 中国から伝わった収穫量の多い大唐米が広まり、二毛作の普及や、水資源を管理するための地域的な組織作りが進んだ。
- シルクロードを通じてもたらされた小麦の栽培が奨励され、米を一切作らない裏作専門の農村が各地に形成された。
- アイヌとの交易で得た強力な肥料を用いたことで、西日本一帯でそれまでの二毛作に代わる三毛作が開始された。
- 中国へ輸出するための火薬の原料となる作物の栽培が、用水路の発達した西日本の平野部で急速に拡大した。

問2 鎌倉時代から室町時代にかけての日本国内における貨幣の状況について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。

（2026年 和歌山公立入試 類似）

- 中国の宋や明から貿易によって大量に輸入された銅銭が、主な通貨として流通した。
- 政府が和同開珎などの銅銭を国内で鑄造し、全国的な流通を強く促した。
- 江戸幕府によって鑄造された慶長小判などの金貨が、全国の市場で中心的な役割を果たした。
- 貨幣の代わりとして、各藩が発行した独自の紙幣である藩札が広く一般的に使われた。

問3 15世紀の日本では、有力な農民を中心に「惣村」と呼ばれる自治組織が作られました。当時の農民たちが、不当な支配に対抗するために土倉や酒屋を襲撃して求めた事柄として、最も適切なものを選びなさい。（2023年 茨城県公立入試 類似）

- 借金の帳消し（徳政）
- 関所の廃止と自由な通行
- 新しい土地の開墾許可
- 金山や銀山などの鉱山開発権

問4 室町幕府において、足利氏の一門である細川氏・斯波氏・畠山氏の三家から交代で選ばれ、将軍を補佐して政務を統括した最高の役職は何ですか。（2024年 香川公立入試 類似）

- 管領
- 執権
- 老中
- 太政大臣

問5 鎌倉幕府と室町幕府の仕組みを比較した際、鎌倉幕府における「執権」に相当する、室町幕府で将軍を補佐して幕政を支えた役職として適切なものはどれですか。（2024年 滋賀公立入試 類似）

- 管領
- 守護
- 地頭
- 鎌倉公方

問6 14世紀末から15世紀初めにかけて、室町幕府の第3代将軍である足利義満が明の皇帝から「日本国王」として認められ、正式に開始した貿易を何とといいますか。（2017年 大阪公立入試 類似）

- 日宋貿易
- 日明貿易
- 南蛮貿易
- 朱印船貿易

問7 足利義満によって始められた日明貿易で、「勘合」と呼ばれる札が用いられた理由として、当時の時代背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

- 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため
- キリスト教の布教を目的とする宣教師の密航を阻止するため
- 有力な守護大名が独自に行っていた私貿易を、幕府が完全に管理・独占するため
- 元寇による被害に対する賠償金の支払いを、明側に証明させるため

問8 鎌倉時代から室町時代にかけて、毎月決められた日に開催された「定期市」の開催回数が、月に3回（三斎市）から月に6回（六斎市）へと増加した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 奈良公立入試 類似）

- 生産力の向上によって余剰産品が増え、商業が活発化するとともに、貨幣が民衆の生活にまで広く浸透したため
- 戦国大名が市場の税を免除する政策を行い、座の特権を廃止して誰もが自由に商売を行えるようにしたため
- 特定の商人が「座」と呼ばれる組合を結成し、幕府や寺社に税を納めることで販売の独占権を得たため
- 交通の要所に物資の保管や運送を専門に行う「問丸」が登場し、遠隔地との取引を仲介するようになったため

問9 鎌倉幕府が滅亡した後に後醍醐天皇が開始した「建武の新政」が、わずか数年で崩壊し、足利尊氏ら武士の離反を招いた主な理由として最も適切な説明はどれですか。（2026年 栃木公立入試 類似）

- 恩賞の配分などで武士の慣習を無視して公家を極端に優遇し、武士の不満が急速に高まったため
- モンゴル帝国の侵攻に対する防衛戦で、戦功を挙げた武士への十分な土地の給与が行えなかったため
- フランシスコ・ザビエルが伝えたキリスト教を保護し、仏教勢力との間に深刻な対立が生じたため
- 全国の守護に強い権限を与えすぎたことで、各地の守護が幕府から独立して戦国大名化したため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国から伝わった収穫量の多い大唐米が広まり、二毛作の普及や、水資源を管理するための地域的な組織作りが進んだ。	中世の日本では、中国から導入された「大唐米（だいとうまい）」と呼ばれる品種が西日本を中心に普及しました。大唐米は病害虫や乾燥に強く、収穫量も多かったため、農業生産力の向上に寄与しました。また、同じ耕地で一年に二種類の作物を育てる二毛作が広まるとともに、用水路を適切に管理・運営するための農民同士のつながりも強まりました。
問2	答え 1 中国の宋や明から貿易によって大量に輸入された銅銭が、主な通貨として流通した。	日本では10世紀後半から自国での貨幣鑄造が途絶えていましたが、中世に入り商業や貿易が活発化すると貨幣の需要が高まりました。そのため、日宋貿易や日明貿易を通じて中国から宋銭や明銭を輸入し、それらが国内で広く利用されるようになりました。
問3	答え 1 借金の帳消し（徳政）	室町時代、農民たちは「惣村」という自治組織を結成し、年貢の徴収や村の掟の作成を自ら行うようになりました。生活が苦しくなると、彼らは「土一揆」を起こして金融業者である土倉や酒屋を襲い、借金の証文を破棄させるなどして「徳政」を要求しました。1428年の正長の土一揆がその代表例です。
問4	答え 1 管領	室町幕府の政治組織において、将軍に次ぐ最高職です。有力な守護大名である細川氏、斯波氏、畠山氏の三家（三管領）が交代で就任し、将軍を助けて幕政全般を指揮しました。鎌倉幕府における執権に相当する役割を担いました。
問5	答え 1 管領	幕府の政治を動かす最高責任者の呼称は時代によって異なります。源頼朝の死後、鎌倉幕府で北条氏が世襲した役職は執権ですが、室町幕府において将軍を補佐する最高役職は管領です。室町幕府の管領は、有力な守護大名の連合政権的な性格を象徴する役職でもありました。
問6	答え 2 日明貿易	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、明の皇帝から「日本国王」という称号を与えられて臣下となる形式（冊封）をとることで、正式な国交を樹立しました。この関係に基づいて行われた対外貿易が日明貿易です。幕府はこの貿易を独占することで、莫大な利益を得て権力を強化しました。
問7	答え 1 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため	当時、朝鮮半島や中国の沿岸部では、倭寇という海賊集団が激しい活動を行っており、明の政府は日本側にその取り締まりを強く求めていました。これに対し、足利義満は明との正式な国交を樹立。明から与えられた「勘合」を所持する船だけを正規の貿易船として認める仕組みを作ることによって、倭寇による密貿易や略奪を排除し、国家間の安定した貿易を実現しようとしていました。
問8	答え 1 生産力の向上によって余剰産品が増え、商業が活発化するとともに、貨幣が民衆の生活にまで広く浸透したため	中世の日本では、農業技術の向上によって農作物の収穫量が増え、それを売買する商業が発展しました。当時の市の様子を描いた資料や民衆の生活を記した碑文からも、宋銭や明銭といった貨幣が取引の手段として一般的に使われていたことが分かっています。このような経済の活性化と貨幣経済の広がりが、定期市の開催頻度を押し上げる要因となりました。
問9	答え 1 恩賞の配分などで武士の慣習を無視して公家を極端に優遇し、武士の不満が急速に高まったため	後醍醐天皇は天皇中心の理想的な政治を目指しましたが、それまでの武士社会の慣習を軽視し、公家を重視した土地の安堵や恩賞決定を行ったため、鎌倉幕府倒幕に協力した武士たちの期待を裏切る結果となりました。これが足利尊氏による離反と、その後の南北朝の動乱につながります。